

日時

2018年1月12日(金)  
11:00 - 17:00

地域実務者 × 研究者  
U | J ターンを考える  
聞き書きセミナー

場所

総合地球環境学研究所  
ダイニングルーム

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4

要旨

わたしたちが暮らす日本は、世界でいち早く人口減少社会に突入しました。人口減少が顕著に見られる中山間地域では、次世代の人材を地域内外から「巻き込み」、定住を促進させ、新しい地域社会のあり方が模索されています。わたしたちは、様々なステークホルダーの「主体的な深い参加」の仕組みを明らかにすることが、持続可能な地域社会へと向かうと考えております。本セミナーでは、1ターンなどによって農村に定住している地域実務者との対話を通して、地域に巻き込む力についてどのような方法や課題があるか議論いたします。研究者の方のみならず、今後、1ターン等の移住を考えている方の参加をお待ちしております。

スケジュール

11:00 - 13:00 「蕎麦からつながる」

11時より蕎麦打ちの実演を行い、12時より蕎麦の試食会になります。

試食会に参加される方は、参加費（未定：500円～1000円程度）を頂戴いたします。  
申し込みフォーム：<https://goo.gl/forms/tL1vTzjKscFEUCUE3>



13:00 - 17:00 「縁からまなぶ」

ここでは、形式に捉われず自由な対話を歓迎いたします。地域実務者たちの日々の暮らしや活動を伺いながら、素朴な疑問を投げかけ、みなさんと一緒に考えてゆきたいと思っております。

# 地域に人を どう「巻き込む」か？



安喰 健一  
(そば処 あじき堂)

×



石山 俊  
(国立民族学博物館)

安喰 健一 (あじきけんいち)

兵庫県生まれ。全国各地での暮らしを経て、2008年に綾部市に移住。福井県で蕎麦打ちを覚え、2015年に「そば処 あじき堂」をオープン。土、日、月曜の3日間営業し、米づくりをはじめ農業にも勤しむ。



田畑 勇太  
(ぬた守る会)

×



三村 豊  
(総合地球環境学研究所)

田畑 勇太 (たばたゆうた)

愛知県生まれ。限界集落発祥の地、高知県大豊町に4年前に1ターン。現在、妻と息子と三人で暮らし、農業を営んでいる。2017年2月に集落を持続させることを目的としたNPO「ぬた守る会」を発足させる。



吉田 修・弓  
(やまみつや / 和合カメラ)

×



甘 靖超 真貝 理香  
(総合地球環境学研究所)

吉田 修・弓 (よしだおさむ・ゆみ)

神奈川県生まれ(修)。東京都生まれ(弓)。南信州の山間地、和合という集落に移住して19年。夫婦共に有機農業・地元特産品の加工・販売に従事。2009年からニホンミツバチを飼い始め、2011年に「やまみつや」というニホンミツバチの巣箱のネットショップを開業。「和合カメラ」等のHPを通して地域の情報発信にも努めている。

主催

総合地球環境学研究所 平成29年度所長裁量経費 グループ研究  
地球研若手研究員連携プロジェクト 地域実務者連携セミナーの実施  
地域に人をどう「巻き込む」か? —実践者と研究者、アーティストの協働による参与支援型研究  
連絡先: 三村豊 (mimura@chikyu.ac.jp)、075-707-2347